



## 老舗企業の5つの共通項

おきなわFB短信(6)  
(1分間で読めます。)

平成21年2月20日(金)

長寿企業に関する本を20冊ばかり読んでいて面白かったのは、拓殖大学野村進教授の「千年、働いてきました」 老舗企業大国ニッポン (角川書店発行)である。

その本の末尾近くの部分に「老舗製造業五つの共通項」というのがまとめているので紹介したい。

第一は、同族経営ではあっても、血族に固執せず、企業存続のためなら、よそから優れた人材を取り入れるのを躊躇しないこと。同族経営という安定基盤によって、優秀な人材の活用を図り続ける。

第二は、時代の変化に対応する。

老舗というと、不動の、悪く言えば停滞した「静」のイメージがあるけれど、実際には柔軟性と即応性に富んだ「動」の組織であることを忘れない。

第三は、時代に対応した製品、サービスを生み出しつつも、創業以来の家の部分は、頑固に守り抜いている。

それは、利益には直接結び付かなくても、ここだけは譲れないという、企業が存続するための大きい倫理と理念のようなものである。

第四は、分をわきまえ、本業の延長線上という一線だけは崩さない。

なぜそういう商売をするのかという説明のつく商売をする。

本業で社会に貢献する、それを外したら長続きしないという理念。

第五は、売り手と買い手との、公正と信頼を取引の基盤とする「町人の正義」の実践である。「町人の正義」とは、哲学者で鳥取環境大学加藤尚武学長が言われている、社会主義の計画経済でも資本主義の自由競争でもない、人間の生きる道であるとのことである。